

# 城原川だより 73号 城原川を考える会

【ダムに抛らない治水をめざすには】

2018 4. 16日(月)

次回発行予定 2018年 5月 18日(金)



3月31日土曜日 JRが企画した「うきはの早春！桜満開ウォーキング」に会員6名で参加しました。目的は、筑後川と耳納山地の間を20<sup>キ</sup>以上も並走して流れる巨瀬川の右岸、堅固になっている堤防やそこに続く桜並木(1,5キロ)「乗り越し堤」(延長130m、高さ1,5m)、や「遊水地」(約3,5ヘクタール)などを見学するためです。筑紫平野の低平地研究の第一人者である岸原信義先生に案内していただきました。

**耳納山地**は久留米市の市街地東部からほぼ東に葉25km続く山地。水縄山地とも書く。産地名は山地西部の耳納山にちなむが、耳納の由来に関して、山麓に現れた化け物の耳とする説、東北地方で源義家と戦った安倍貞任の耳を治めたという説、中国人が水縄を引いた嶺線の説などがあるが定かではない。この山地は、西端の標高312.3mの高良山からほぼ東に、耳納山、発心山、鷹取山など600~800mの高度で尾根を連ね、合瀬耳納峠を経て津江山地にいたる。久留米市、うきは市、広川町、上陽町、星野村に属する。耳納山地は古くから、中央構造線が分岐した松山伊万里線に沿う断層山地と考えられ、山地の北麓で活断層が見られる。これは北側に低下し南側に上昇する断層によるもので、変位量は測定されていない。この山地を北側から眺めると屏風を立てたような典型的な断層崖がちなり、比高400から700m、長さ15kmに及び、山麓の筑後川に沿う沖積平野との間に扇状地や崖錘(がいすい)を形成する。高良山から鷹取山にかけての主尾根の南側は、比較的緩傾斜に高度を減じ星野川にいたる。南斜面では、北麓の断層線と並行する谷も見られるが、大部分の谷は必従谷(ひつじゅうこく)となって南流する。このような地形的特徴から耳納山地は傾動地塊と考えられる。(角川日本地名大辞典より)



写真は、耳納連山

ところで、耳納連山って不思議な名前ですよ。どんな由来なのか、先ず調べてみました。いくつかの説があります。その代表的なものを記してみます。

## 牛鬼の耳を納めた説

時は康平五年(1062)の晩秋のある夜のこと。「ゴーンゴーン」と突鳴らす時ならぬ鐘の音に、然廓上人は驚いて目を覚ました。「はてな、此の夜中に誰が鐘をついているのだろう。」とつぶやきながら床から起きてそと鐘突堂に忍び寄っていった。が、ほの白く沈んだ闇が空しく水繩の山裾に腹ぼうているばかりで、何者の姿も見出し得ない。「不思議だな」上人はつぶやきながら本堂の方へと帰っていった。

しかし、この不思議な出来事は、来る夜も来る夜もつづき、はては罪もない地元の婦女子が怪物に襲われるという怪異までも起こるようになった。「よし。さらば、御仏の御霊光にかけても」と、意を決した上人は、そのものの正体を突き止めるべく、その夜早くから木陰に身を潜め、時の至るのを待っていた。呪いに鳴くふくろうの声が森にこだまし、山麓の夜はしだいに更けわたっていく。

おお、そこに、風の如く忽然と現れ出た怪物は、何と顔は牛、体は鬼。いいようもなく物凄いもの。しかし、上人は、泰然自若として経文を読み続けるのだった。するとどうだろう。心魂を徹して念ずる御仏の功德によってか、さすがの牛鬼も神通力を失い、やがて五体の自由さえ失っていった。そして夜のほのぼのと明け放たれる頃、急を聞いて駆けつけた村人達によって怪物の首は都へ送られ、怪物の手は斬りとられ寺に残されることになった。耳は山に埋められ、その山を名付けて「耳納山」というようになったという。



(『宇积波・浮羽伝説集』浮羽郡郷土会)

壇ノ浦決戦の翌年(1186)の夏のこと、絶え間ない山鳴りが起き、村人は山の神の怒りと考えました。村人は観音寺の金光坊さんに相談。和尚さんは「ただの山なりではない、化け物の仕業のようだ」と言い、「化け物退治をしなければ」といいただきました。金光坊は、深夜村人二人をつれて道なき道の山に向かいました。「声を出すな」と二人に言って峠で座禅を組んだ金光坊はお経を唱えながら化け物に語りかけました。「姿を現し、言いたきことあらば申せ」。すると山がグラリと動き、ものすごい山鳴りとともに大木がなぎ倒され、巨大な化け物が現れました。体は赤おに、首から上は牛の頭。この牛鬼は金光坊に襲いかかろうとしましたが、逆に手首と耳を切り落とされてしまいました。牛鬼は泣き出して「われら鬼は山にすんでいたが、山を荒らす者が谷川に毒を流して、それを飲んだ吾らの頭は牛になってしまった。それで人間に仕返しをしていたのです」と語りました。これを聞いた金光坊は牛鬼を山に帰し、切り取った手首は観音寺の宝としていつまでも保管、耳は足代(耳納山の昔の呼び名)の山中に埋めたということです。そして、牛鬼の安泰を祈り、牛鬼の不幸、山の自然を荒らした人間の罪を人々が知ること、山を大事にして行く気持ちが広がっていけば、という思いで供養の読経を唱え続けたということです。



牛鬼の手

\* 今光坊と然廊上人は同一人物と思われるが、上二つの伝説には 120 年以上の時間差がある。

#### 奥州の安倍一族の耳を納めた説

天喜(てんき : 1053~1058)、康平(こうへい : 1058~1064)という時代、前九年の役(1051~1062)、後三年の役(1083~1087)と戦いの日々

奥州では安倍貞任一族が叛乱を起こし衣川で滅んでしまうが、九州でその事を知らない貞任の据息子達が、筑前の鬼城で八幡太郎義家の軍勢3万と戦ったがビクともしなかった。義家は「これ以上抵抗しても、奥州では一族は滅んでしまったのだから意味が無い。早く降参しろ」と鬼城の方に向かって言うが「そんな話は信じられない。最後まで戦う」と話を聞こうとしない。攻めれば怪我人に死人を増やすだけだと思った義家は、奥州から貞任の耳を切って運んでこらせて、それを城兵に見せて降参を勧めた。鬼城の息子も

兵達も、それを見てガックリ。しかし降参をせずに三千の城兵全員が自決してしまった。その哀れな姿を見た義家は皆の耳を切り取りこの山に埋めて供養をした。それから耳納山と言うようになった。(ネット情報)

その他、古代、大宰府、久留米、八女あたりに強い勢力があったときに、先祖を祭る山として神納(みのう)山と呼ばれていたものが、耳納となった。

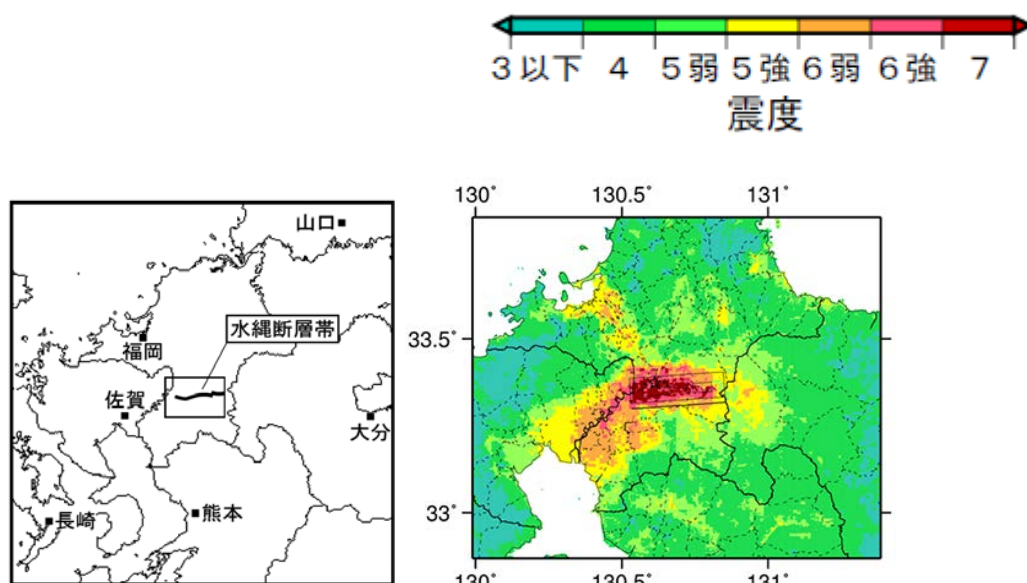
中世以前には三奈尾、皆尾と呼ばれていた。

中国人が水縄を稜線にはった。耳納(水縄)

と言う説など、定まったものはないようです。

私たちが、ここで注目するのは「牛鬼の耳」のなかで伝えられている「絶え間ない山鳴り」「鐘の音」「川の汚染」等についてです。

5日前の4月11日未明、耶馬溪町で大規模な土砂崩壊が起こり、今でも懸命な救出活動が行われていますが、雨も降らないのに起った土砂崩れでした。土砂崩れや山体崩壊などのとき、いろいろな前兆現象があるとされています。その時の一つに山鳴りがあります。川の水の濁りも起こります。地元の婦女子が襲われた、とありますが、今回も6人も人が被害にあっています。急傾斜地に住む人にとっては人ごとではありません。この伝説は耳納山地がかかえている地形的な危うさを後世に伝えようとしたものではないかと思えてきます。地形的な危うさは急峻な北面の地形や地質だけではありません。この地下には大きな断層帯があります。もしこの断層がうごいたとしたら、マグニチュード7.2程度の地震が起こるそうです。神崎市あたりも大きな影響があり、下記の図をみると、震度6程の揺れが示してあります。



政府地震調査研究対策本部資料より

耳納山についてはこれくらいにして、

今回の目的は桜並木の土手に守られた遊水地の見学です。



巨瀬川沿いにある浮羽町のながれ川桜並木（延長 1.5 キロ）

この土手の左手が上流から溢れ流れてくる水の広大な遊水地（約 3.5 h a）となっています。



下流の深迫川右岸堤防

また、この深迫川の上流に延長 30m くらい 1m 以上低くなる野越（乗り越し堤）があり巨瀬川の水位が 1.5m 以上高くなると上記の遊水地へ流れ込み、巨瀬川の洪水負荷を軽くしてやる機能を有しています。

岸原先生の「藩政時代における筑紫平野の地域治水に関する研究（2）」によると、この筑後川と並行して流れる巨瀬川あたりに構築された筑後川への洪水流入阻止という素晴らしい遊水地システムは古くからこのあたり（草野、田主丸、吉井等）の繁栄をもたらしていた、ということでした。

## 第 110 回定例会報告

### 資料

城原川だより 72 号

巨瀬川関連資料（閲覧後回収）

第 33 回水郷水都 in 朝倉・久留米開催要項

佐賀新聞 3/15 付け 広滝第一発電所特集記事

嘉瀬川交流塾配布、日本下水道新聞 1998 年 7/27 付け

「流域の総合水管理について」（古賀憲一氏筆）

110 回定例会では県の砂防課から 3 名の参加もあり、年度末の定例会として意見交換がおこなわれました。また、4 月 21 日、22 日に行われる「第 33 回水郷水都全国会議 in 朝倉・久留米」についての協力確認、空気中の水蒸気量の増加に抛る豪雨災害の巨大化、お茶屋堰上流の塩分濃度や筑後川での流量の問題などが話し合われました。

**第 112 回定例会 5 月 18 日 14:00~16:00 神埼市中央公民館**

**第 113 回定例会 6 月（ ）**

**参加費用（資料代） 200 円**

**月曜勉強会（祝祭日を除く毎月曜日）**

**10:00~12:00**

**千代田町福祉センター**

**皆様のご参加お待ちしております**

代表 佐藤 悦子 〒842-0056 神埼市千代田町境原 282-12

電話 0952-44-2925

副代表 平田憲一 〒842-0122 神埼市神埼町城原 1877-1

電話 0952-52-2827

Mail : [teaho74@yahoo.co.jp](mailto:teaho74@yahoo.co.jp)

ブログ ふるさとの川城原川 [livedoor.jp/ jyubarugawa](http://livedoor.jp/jyubarugawa)

<https://ameblo.jp/jyoubarugawa/>

メールまたは、上記各連絡先へ、ご意見、疑問、質問、反論、どしどしおよせください。

文責 佐藤悦子